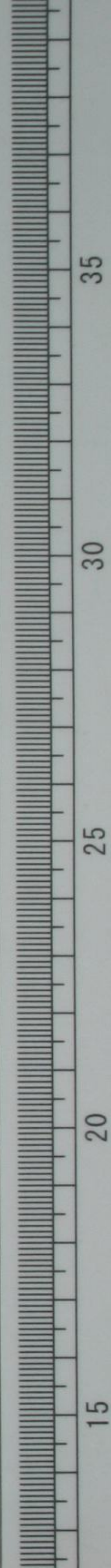




113
697
7



118
697
7

制度通考之七目錄

中川鶴阜家藏

天正十五年二月
花房仙文郎氏寄贈

伊藤長胤輯

一任子蔭補ノ事

一廟制並間架ノ事

一九族五宗五服并本朝五等親ノ事

一廟陵ノ号并臣下謚號ノ事

計四條

制度通考之七

伊藤長胤輯

▲任子蔭補ノ夏

○任子ト云コト。古キコトナリ。然レ在仕者有世禄トアル
 孫ハ官アル人ノ子孫ハ少シ家禄ヲ賜フトニハタリ。ノ
 漢ヨリコカタ官人禄ヲ世々スルコトナシ。其ノ
 内久ニシテ勤タルモノ其子ヲ官ニスルコトアリ。
 此ヲ任子ト云。蘇氏以父任為即刘向以父
 任為輦車即ト云コトナリ。漢儀注云く吏
 ニ千石以上視事滿三歲得任同產若

子一人為郎。子或同腹ノ弟ヲ任スルコトナリ。其法漢ニ始リテ唐ノ世ニ委細ノ差アリ。文献通考ニ云。任子法始於漢而其法を備於唐ト云。此ナリ。

○任子又門蔭ト云。漢唐列傳ノ中ニ具ニコト多言。南北朝ノ史傳ニハソノ事見ヘス。此ハ漢唐ノ時ニハ及弟或ハ辟名ニテ人ヲ用ヒソノ外先祖ノ蔭ニテ任ニ入り科目辟名ニヨラサルモノヲ門蔭トスルニヨリテ。具ニ其ハ及ヲ書サス。三国晋ヨリコノカタハ。仕者多家ヲ

世々ニス。ソノ時ニモ科目辟名ノ及アリトイヘ凡。皆貴族ノ人ヨリ是ヲ取。匹夫ヨリ起リテ貴則顯ナルモノハスクナシ。ソレユヘニ門蔭ノ及ヲ書サス。ゴノ論具ニ文献通考ニアリ。

○唐ノ世。任子ノ法。一品以下各差アリ。

唐	一品子	正七品上。
任	二品子	正七品下。
子	三品子	從七品上。
八	從三品子	從七品下。
等	正四品子	正八品上。

圖

從四品子

正八品下

正五品子

從八品上

從五品及國公子從八品下

本朝之制

諸王蔭自從四位下至從五

位下諸臣蔭自從五位下至從八位下凡

蔭皇親者

親王子

從四位下

諸王子

從五位下

五世王

同上

右令二載ル与口此ノコトニ凡親王ト云ハ有品

無品ニ限ラス。帝王ノ親子ヲ親王ト稱ス。令ノ内云。所皆同シ諸王ト云ハ親王ノ子ナリ。五世王トハ帝王五代ノ孫ナリ。凡五位以上子出身者。

一位嫡子

從五位下

庶子

正六位上

二位嫡子

正六位下

庶子

從六位下

三位嫡子

從六位下

庶子

從六位下

正四位嫡子

正七品下。

庶子

從七位上。

從四位嫡子

從七位上。

庶子

從七位下。

正五位嫡子

正八位下。

庶子

從八位上。

從五位嫡子

從八位上。

庶子

從八位下。

右又令二具サナリ。又云三位以上蔭及孫降一等ト。義解云。嫡孫降嫡子庶

孫降庶子也ト云々。

○宋朝ニモ亦任子ノ事アリ。改元及聖節部祀等ノ自出度事アル時分ニ八百官ノ子弟ヲ官ニ任スルヲアリ。仁宗ノ嘉祐ノ比制アリテ部祀ハカリニ任セラレ。其餘ハヤメラレ。部祀ハ天ヲ祭ルコト。ソノイハヒニ一統ニ官ニスルコトアリ。此ヲ帶同息ト云。部同息ト云。覃息トモ云。何モコノ事ナリ。又奏蔭息任トモ云。同息任トモ云。同息例ト云。

○明朝蔭子ノ法。唐ニ準テ三テ。増損アリ

○リ洪武二十六年ニ蔭叙ノ品級ヲ定メテ
ル。會典ニ依テ叙ヲ下ニ舉ル。

正一品子

正五品叙。

從一品子

從五品叙。

正二品子

正六品叙。

從二品子

從六品叙。

正三品子

正七品叙。

從三品子

從七品叙。

正四品子

正八品叙。

從四品子

從八品叙。

正五品子

正九品叙。

從五品子

從九品叙。

正六品子

未入流品上等及職吏

内叙。

從六品子

未入流品中等職古流

内叙。

正七品子

未入流品下等職古流

内叙。

▲廟制並三間架ノ事

○報本反始ハ礼ノ大節ナリ。故ニ古ヨリ礼
天子ハ天地ヲ祭リ。諸侯ハ封内ノ山川ヲ祭
リ。大夫以下各ソク先祖ヲ祭ル。ソノ外日月
星辰風雨寒暑又ハ古ヨリ聖王賢員君子
人ニ功德アルモノハ祭ラカル。ナリ。其ハコト具ニ礼
記ニアラハル。詳カニスルニ及ハス。

○古ノ廟制ハ礼記玉制ノ註ニ鄭氏礼
ノ緯ヲ引テ云。唐虞六立五廟。夏氏因
之。殷六廟。周七廟ト。此復ノ世ハ二昭二

穆ニ禹ヲ始祖トシテ五廟ナリ。殷ノ世ハ三
昭ニ穆ニ契ト湯トヲ祖トシテ六廟ナリ。
周ノ世ハ二昭ニ穆ニ后稷文武ノ廟ヲ
合セ七廟ナリ。杜氏通典ニオモヘラク。商
書ニ七世ノ廟可以觀徳トアレハ。殷周ト
テモ天子ハ七廟ト云リ。ニカク。周ヨリ以
前廟制冬ニカニハ經典ニアラハス。イツ
トモ。漢己來諸儒揣量ノ説ナハ
援信ニカクニ。周以前下ノ制ヲ考フ
ベシ。

○周ノ時。天子諸侯大夫士廟制ノコト。
礼記王制ノ第二詳カナリ。曰天子七廟。
與三昭三穆。太祖之廟而七。諸侯五廟。
二昭二穆與太祖之廟而五。大夫三廟。一
昭一穆與太祖而二。士一廟。庶人及於冢
ト。
○昭穆ノ説漢儒己來ナリ。朱
子中庸或問ニ詳カナリ。畢竟昭ト
么ハアキヲカナル意。穆ハ幽暗ノ意。昭
ノ廟ハ北ニ位ニテ。南ニ向ヒ。穆ノ廟ハ南ニ位

三テ北ニ向フ。周ノ世ニ在リテモハ。后稷ヲ
 大祖トシテ東ニアリ。ソノ後文王ヲ昭トシ。武
 王ヲ穆トシテ。ソノヨリ一代マセニ。昭穆昭穆
 ト次第スルナリ。太祖ノ廟ハ子孫百代
 ノ後マテモ廢スルコトナシ。是ヲ百世不遷
 ノ廟ト云。二昭三穆ノ廟ハ七代目ニ六段
 々ニコホナテ祭ルヤムルナリ。是ヲ祫廟ト
 云。周ノ世ニ文王武王ノ廟モ共王夷王
 世ニハ八代目ナレハ祫スヘキナレ也。文
 武二代各別ノ大功德アルニヨリテ。文ノ

世室武ノ世室ト云オキテ。別ニ是ヲ祭ル。諸
 侯制モ是ニ準スヘシ。

天子七子廟圖

大祖
 文世室 昭昭昭
 武世室 穆穆穆

○王制ニハ。士一廟。庶人祭於寢ト云リ。又祭
 法ニハ。適士二廟。官師一廟。庶人無廟ト
 云リ。古註ニ云。士謂諸侯之中士下士

又曰適士上士也。官師謂諸侯中士下士
 言官之長一廟八祖禘共之大夫三廟
 祭ル。禮二異說十三士ノ禮。一廟一廟
 ノ差アル。八上士二廟ヲツリ。中士下士ハ
 一廟ヲツリ。中士下士ハ一廟ヲツリ。其内
 ニ父母祖母二代ヲツルナリ。庶人ハイヤニキ
 ニヨリテ。廟ヲ立ルヲヲ云サズニテ。寢ニテ
 コレヲ祭ル。寢ト云ハ。注ニ適。寢トアリテ
 正堂ノコト。今テ人ノイフ坐敷ノ類ナリ。世
 類ノ一詳カナラス。

祖 庶 世 數 圖

天子七廟	三	大祖	三昭
諸侯五廟	二	大祖	二昭
大夫三廟	一	大祖	一昭
上士二廟	祖考二世		
中士下士	祖考二世		
庶人霽			

天子七廟ト。鄭玄ノ說ニハ。周世大祖並
 二文王武王之祧ニ時王ノ親廟四高同曾
 祖考此四代ナリ。合セテ七廟ト云。大祖ト
 ハ后稷ナリ。王肅ノ說ニハ。天子ハ七廟

ト云。太祖トハ后穆ナリ。王肅ノ説ニハ天子ハ七廟ヲ立。ソノ各別ノ功德アル人ハ太祖ニアラサレモホタス。周ノ武王ノコトキ七廟ノ數ニアラス。杜氏通典。ヨノニ説ラケテ王肅ノ説ヲヨミトス。鄭氏ハ先祖ヲマツルコト高曾祖考四代トカキルニヨリテカク注アリ。然レ通典ノ註ニモヒク通典ノ孫卿子曰。有天下者。事^ル七廟一國者。事^ニ五代下尊^ニ早ノ次第ナクニハアヘカラス。王肅ノ説モツトモニカルベシ。

○漢ノハ文七秦ノ絶学ノ後ヲウケテ。宗廟ノ制周ノ礼ヲ用ヒ。天子崩御アル代々ニ廟ヲ立七廟ニカキラス。後漢獻帝ノ世ニナツテ。皇太后上^ニ早祭。皇太后議ニテ。廟制ヲ改正ス。四時ニマツルトコロ高廟一祖ニ宗並ニ近帝四代合テ七帝ナリ。是ニヨリテ七廟ノ制ソナハル。ニ宗ト云ハ文帝宣帝トナリ。近帝四代光武明帝章帝靈帝ナリ。和帝以下ハコホナテ祀ラス。近キ世々マツラス。遠

千世々ヲ祭ルコト茲示邕カ議ニ禮ノ失
ナルヲ文獻通考ニ弁セリ。

ソノ後魏晉宋齊梁陳何レモ七廟ヲ備
フ。或ハ鄭玄カ説ニ從ヒ。或ハ王肅ノ説ニ
從フ。北魏モオナシ。北齊ハ六廟ヲオキ。北
周ハ五廟ヲ置ク。隋ノ時煬帝ニイタリ
テ又七廟ヲタツ。

○唐太宗貞觀九年ニ高祖崩御シ
王フ。大廟ヲ增修セラル。議者或鄭
玄カ説ヲ主トシテ。四廟ノ制ヲヨミトシ

或ハ王肅カ説ヲ主トシテ。七廟ノ制ヲヨミ
トス。中書省侍郎岑文本奏ニテ王肅ノ
説ニシタカシ。晉宋ノ故事ニヨリテ。親廟
六ヲタテ。大廟ヲ增修セラル。

○玄宗開元十年ニ制アリテハナメテ。大
廟九室ヲ立ラレ。是ハ高祖已前四代高
祖以下太宗中宗睿宗ヲ加ヘタルモノナリ。
范萐陽胡致堂論アリテ此ヲソシルソノ
後或遷ニ或ハ祔ニ僖宗ノ時ニイタリ
テ十一室ナリ。

○漢為曹公。立五廟。晉為安昌公。立六廟。後魏為胡珍。立五廟。下續通考。二明ノ夏言ノ疏ニコレヲ奉テ北齊ノ事ト及ヘリ。シカレハ漢ヨリ南北朝ノ比ニテハ百官宗廟ノ世教定リタル制法ハ十三トキコエタリ。

○北齊ノ時王及五等開國執事官散從二品以上比目五代ヲツル。五等ノ散官正三品以下從五品以上ハ三代ヲツル。執事官正六品以下從七品以上ハ三代

ヲツル。正八品以下ハ庶人マテニ通ニテ覆ニツル。

○唐ノ制又品階ニヨリテ差アリ。

唐	一品	二品	三品	四品	五品	庶人
官	一品	二品	三品	四品	五品	庶人
民	五品	四品	三品	二品	一品	庶人
廟	嫡子	一廟	二廟	三廟	四廟	五廟
圖	庶人	一廟	二廟	三廟	四廟	五廟

○開元ノ時又制アリテ。三品以上不須爵。又四廟ヲ立。四廟始封セラレ、モノアリハ。

又五廟ヲ立。四品五品人兼爵アル亦三
廟ヲ多ク。六品以下庶人ニ通ニテ寢ニシ
ルナリ。

本朝之制 未考

○五代ノ世梁唐ハ七廟ヲ立ツ。晋周ハ五廟ヲ
立ツ。漢ハ五廟ノ外ニムカシノ高祖光武ヲ
合テ祭リテ六廟ヲ立。周亦四廟ナリ。

○宋太祖建隆元年ニ有司宗廟ヲ立
ニテ請フ。百官ヲ合セ議セシメ四親ノ廟
冊ニ立テ神主ヲ奉安ニ謚ヲ上ル。嘉祐

七年仁宗崩御ノ後。英宗ノ時ニハ七世
ハ室ノ制ヲ定メラル。其後徽宗ノ宗寧
三年ニ太廟ヲ三ニテ十室トス。

○宋朝ノ法ニハ天子ノ御影ヲウツニ別宮
殿ヲコシラステ安置ス。本朝近代ニ御魂
屋ト云カコトニ。真宗ノ時ニ景靈宮ヲ
建ラル。崩御ノ後。真宗自皇帝ヲ奉ス。
又寺觀ニ安置スルモアリ。又獻通考
ニ云ク。凡七十年間神御在宮者。眞
他寓ニ諸寺觀者十一所ト云云。

○宋ノ時士庶人ノ家モ亦三代ヲ祭ル。或オ
モヘラク礼ニ違ト。朱子云。三代ヲ祭生
ト一室ニテ。廟ヲニツ立ルニアラサレハ。僭ト云
ヘカラス。古人所謂廟トハ。門堂寢室
アリテソノ體極テ。廟大ナリ。又官師一廟
父母ヲ祭リテ祖ニ及スルヲ論ニテ。オ
モヘラク。位卑而澤淺。其理自當。如
此ト又程子ノ説ニハ。或ヒト問ス。今人
不祭高祖。曰高祖自有眼。不祭
甚非甚。家却祭高祖ト云リ。朱子

家礼ニハ。程子ノ説ニ從ヒ。士庶人ニ通
ニテ。四代ヲ祭ルヨウニ定メラル。文獻通考
ニ程朱氏ノ説ヲ奉ケテ。楊氏ノ説アリ
テ。此ヲ判断ニテ。オモヘラク。禮有淺深ト
云ハ。其分異也。ト三廟一廟必高祖ヲ祭
ルハ。其理同也。ト此ハ調停両可ノ説ニテ
カタ付カヌルコトナリ。先子オモヘラク。天
子諸侯ヨリ士庶人ニイタルマテ。何事
ニモ隆殺ノ差アルヲナレハ。宗廟ノ世數
モ四世ヲ祭ルコトハ。礼ニ有マニキ。トイ

ヘリ。予オモヘラシク。後世ニハ封建ノ法廢
レタルトハニカト。諸侯大夫ト世々ヲ重ズル
古又十三。其故一際ニ四世ト極メラシタルモ宜
カルヘシ。然レモ庶人ノ輕キモノ祖先モ
夕ニカニ覺見ヘサレハ。必四世トハカキリカタキナル
ヘシ。

○遼金ノ廟制奉ルニ及ス。元ノ世祖ノ
時。太廟ヲ燕京ニ建テ八代ヲ祭リ元
ハ室トス。至元元年ニ初テ太廟七室
ノ制ヲ備フ。

○明ノ太祖洪武元年ニ先祖四代ノ尊
號ヲ上リ。追尊ニテ皇帝自皇后ト。並親
ノ廟ヲ建ツ。世宗嘉靖年中ニ至ツテ。七
廟ノ制ヲ備フ。續通考ニ詳カナル。

明七廟圖

太祖廟 太宗世室
穆第一宣宗 穆第二憲宗 穆第三武宗

昭第一仁宗 昭第二英宗 昭第三孝宗

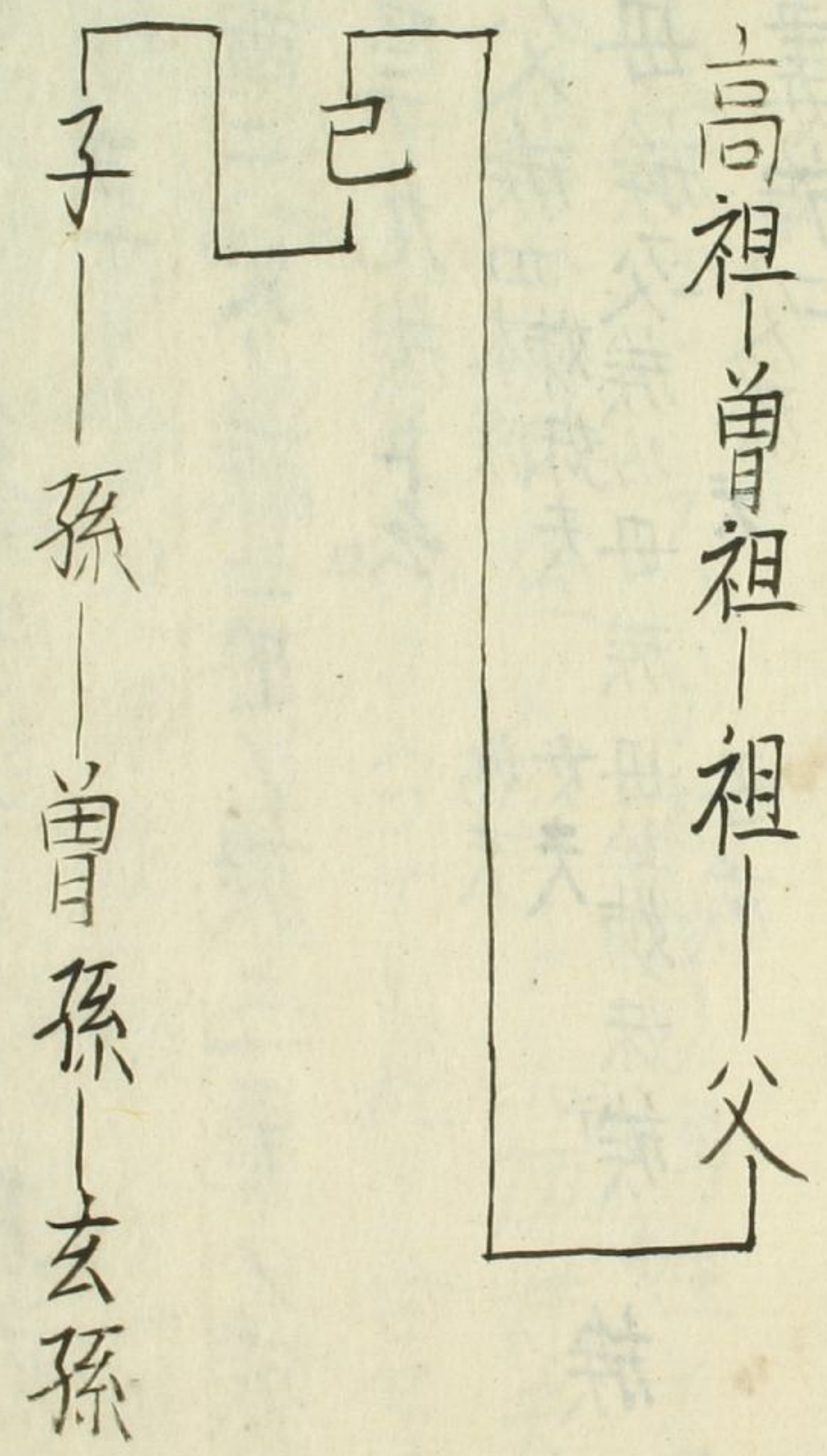
明ノ時品官ハ四世ヲ紀ル。庶人ニ世ヲ祭ル
大明會典云。國初品官廟制未定。大

明集礼權倣宋儒家礼祠堂之
制奉高曾祖祚四世之主亦以仲
之月祭之又加臘月己心月之祭與夫歲
時俗節之薦享子至若庶人得奉其
祖父母父母之祀已有著令而其時
享子於寢之禮大既與品官畧同。
○圖書編。聖祖定制洪武十七年十二
月十八日欽准庶人祭三代曾祖考又
洪武三十一年三月十九日欽奉旨意
頒降祝文祭高祖考下アリ又家礼

儀節モ下及此コトアリ。

▲九族五宗五服並二本朝五等親ノ古又
 ○中國古ヨリ親族ノ内ニ九族五宗五服ノ
 差別アリ。又三族ト云コトアリ。後世ニ行第
 ト云フアリ。又行トモ云。排行輩行トモ云。此
 等ノコトハ古今世ノ沿革アルコト少々宛ソ
 變及革ノコトナリ。
 ○九族ト云ハ己カ高祖ヨリ玄孫ト云上四代
 下四代ニ己レ身一代ヲ入レテスヘテ九代
 ナリ。此ヲ九族ト云。

九族圖



又一説ニハ己カ身上ハ父ヲ親ニ下ハ子ヲ
 親テ三十リ。又父ヲ以テ祖ヲ親ニ子ヲ以テ
 孫ヲ親テ五十リ。又祖ヲ以テ高祖ヲ親ニ

孫ヲ以テ玄孫ヲ親ニ九十ナリ。此ハ禮記ノ喪服小記ノ内ニ親々以テ三為五以五為九トイヘルヨリカクノコトクニ註アリ。ニ註トモ何レモ代々ノ多テニ付テイヘリ。其内前ノ説明カナリ。

○又一說ニハ父ノ族四母ノ族三妻ノ族ニ此ヲアワセテ九族ト云。

九族別

父族四	本族	姑夫
母族三	姊妹夫	女夫
妻族二	母族	姊妹族
	母族	母族

圖

右ハ父族四トイフハ。ガ本宗ノ同姓ヲ本族トス。姑夫ハ。ガ祖父ノムコナリ。姊妹夫ハ。父ノムコナリ。女夫ハ。ガムコナリ。此ヲ合セテ五族ナリ。母族妻族。是ニ準ス。又一說ニハ。父ノ族四トイフハ。ガ親兄弟並ニ伯父ヲ一族トス。從兄弟伯叔再從兄弟。伯叔三從兄弟伯叔ヲ合セテ四族ナリ。母族妻族ハ前ノ說ト同ニキコトナリ。此ハ詩輯錄陳太猷カ說ナリ。一說ナリ。イツシモ我

一代ノ内ニオシイトコ兄弟ヲカケテヨコニタ
テタルモノナリ。其内前ノ説ヲ通用ス。詳
カニ詩經説約小雅角弓ノ扁ニアラス
ル。右九族ノ説カクコトシ。

○又五宗ト云コトアリ。此ハ周ノ世諸侯大夫
ノ家物惣領ノスミラ多ツ。太宗小宗トイフ
太宗ハ一三三テ小宗ハ四ツアリ。此ヲ合セテ五
宗ト云フ。禮記大傳ノ各稱ニアラ公ル
ノ文ニ云。別子為祖繼別為宗繼補者
為小宗。有百世不遷之宗有五世

則遷之宗此ナリ。又喪服小記ニアスル
○別子ハ諸侯ノ庶子ヲ云。通典ノ註ニ
云。諸侯ノ庶子別テ為後代ノ始祖
者也。トタトヘハ魯ノ桓公ノ子。惣領ハ莊
公ニテ魯君ナリ。莊公ノ弟公子季友ノ
コト也。別ニ家立テ大夫トナリ。季子孫氏ノ
公ナリ。其ノ家ノ元祖トス。此ヲ別子
為祖トイフナリ。通典ニ薛綜カ説ヲ
載テ曰。諸侯之子稱公子。公子還
自仕食菜於其國為卿大夫。若

魯ノ公子季友者也。則子孫自立也。
公子之廟謂之別子。為祖則嫡友相
承作。太宗二百代不絕。去云。凡宗法
ノ事ハイツレモ臣下ノ内ニテ此ヲ言。同
姓ノ臣。臣ニテモ主君ヲ惣領ト云。トフ。此
君臣ノ分限ニテ上下ノ差別ヲ嚴ニスル。テ
リ。礼記ニ族人不得以君位也ト云々。
コレナリ。

○別子トイフニ三様アリ。一、國年ル通諸侯ノ庶
子嫡子ニ別タルモノ此ナリ。又一様ハ他國ノ諸侯

ノ子コノ國ニ来リテ本國キタリテ本國ノモノニ
別タルモノ此ナリ。又一様ハ微賤ヨリス。フナリテ卿太
夫トナリ仕カレモノ別ナル此ナリ。イツレモ別
ニ後世ノ元祖トナルコトハ此ヲ別子ト称
スルナリ。喪服小記ノ註ニ具サナリ。

○繼別爲宗ト云ハ別子ノ子孫代々嫡
子ヲ家督トシテ代々ニ家ヨリ別レタ
ル一族ノ人枝々ニテ。コトククコノ家ヲ
惣領スニト云ナリ。タトハ五代十代ヲ
フルトイヘ也。此ヲ宗家トシテカハルコトナリ。

此ヲ大宗トス。百世不遷之宗ト云此ナリ。
○繼禰為小宗ト云ハ。禰ハ父ノ廟ナリ。
小宗ハ四ツアリテ。高祖ヨリ曾祖父
並ニ父ノ物惣領スナリヲ何レモ小宗ト云。
禰ハカリニカキラス。礼記ニ繼禰ハカリヲ
舉ルハソノハニメハ何レモ兄弟ノカレ禰ニツ
クヨリ始マリタルユナリ。スヘテ小宗ト云ハ
代々ニ二男三男ノワカレ有ヨリオコル。最
初ヨリ云ニヨリテ初学ノ人多クマヨヒヲ
未ヨリサカノホリニテニレハヨクニル、コトナリ。

タトエハ吾自身ニ兄弟五人アリ。父ノ家督
一人ノ兄ナリ。四人ノ弟此ヲ宗トニテ。家ヲ
分ツトイトモ此ヲ宗トス。此ヲ繼禰小
宗ト云。又吾父ニ兄弟アリテ。我父ニ男
三田カナレハ。吾父ノ兄ヲ家督トス。ゾノ嫡
子我トハ從兄弟ナリ。コノ人ヲ祖父ノ物
領スナトス。是ヲ繼祖小宗ト云。又吾祖父
ニ兄弟アリテ。吾祖父庶子ナレハ祖父
ノ兄ヲ曾祖父ノ家督トス。其ノ嫡孫
我ト再從兄弟ナリ。コノ人ヲ曾祖ノ

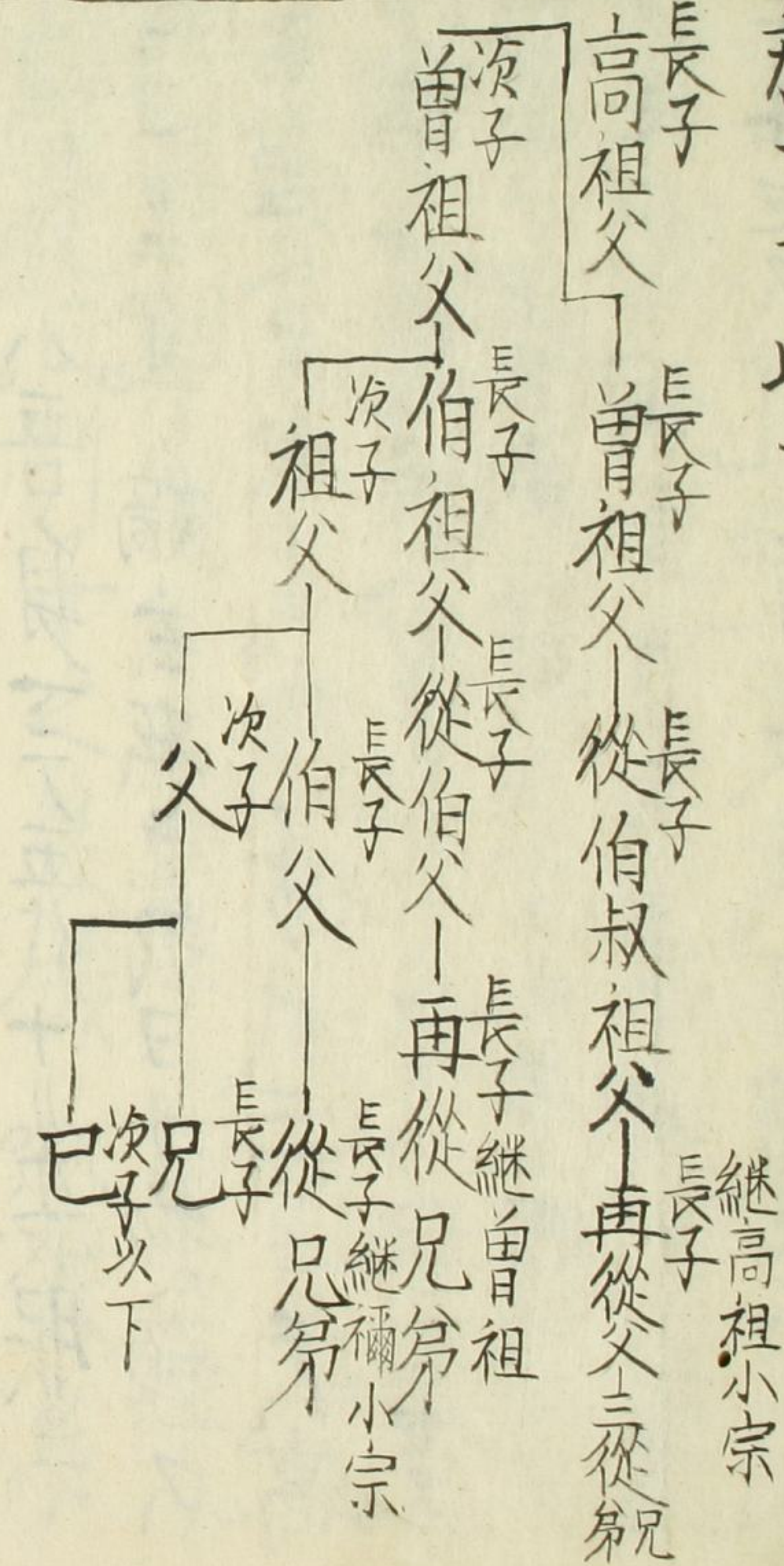
物惣領スニトス。此ヲ繼曾祖小宗トス。又
吾曾祖父ニ兄弟アリテ。吾曾祖父
庶子ナレハ吾高祖ノ兄ヲ高祖父ノ
家督トス。其嫡曾孫我トハ三從兄
弟ナリ。コノ人ヲ高祖ノ惣領スニトス。此
ヲ繼高祖小宗トス。此ニテ小宗四ツリ。
孔穎達曰。別子之後族人衆多
繼高祖者與。三從兄弟為宗。繼
曾祖者與。再從兄弟為宗。繼祖
者與。同堂兄弟為宗。繼禰者與。

親兄弟為宗。族人一身事。尚小宗并
大宗為五也。トコノ說杜氏通典コレ引
ク明ニキコユ。

○サテ高祖ハ吾身ニテ五代ナリ。喪服未
盡ニヨリニ。其嫡玄孫ヲ我ヨリ物惣領ス
ニトス。是ヲ宗トス。我子ノ代ニナリテハ高
祖ノ親盡ルユヘニ。ソノ嫡子スニテ宗トセス。
故ニ是ヲ五世則遷ノ宗トス。曾祖以下ノ
小宗モ何モ同ニキコトス。五代過ハ親盡
テ宗トセス。禮記ニ又云。祖遷子。上宗

易於下下此十リ

五宗圖



○大抵小宗大宗ト云ハ先祖代々ニ兄弟多キニヨリテカクコトクニ枝々ニワカレアルナリ又已カ一家ノ宗トスルスニバカリヲアラハニタ

ルモナリ。先祖ニ兄弟ナク或ハ其家断絶スル寸ハ五宗備ルコトナリ。又枝々ノ宗トスル人ノスニ此ニカキラス。此ハ我家一通リノスニ又代々ノ小宗備リタル上ニ就テ示ニタルモノナリ。コノ外コトニ準ニテ知ルヘシ。何レモ庶子ヨリカリユリ。五服ト云ハ我親族ノ内ニテ我身ニ忌ノカリリテ喪服ヲ着スルヲ斬衰齊衰大功小功緦麻ト五段ニタテ。喪ヲツトムルナリ。其日數ハ三年ヨリ三月ニイタルコト分テ有服ノ親ト云コノ外ハ同姓タリ

トイハレ親遠キニハニ服十三。是ヲ無服ノ親ト云。ソノ次第ハ儀禮喪服傳ニヨリコノカク。文公家礼等ニ詳カシクハ。此ニアケズ。

五服圖

斬衰三年
齊衰三年
大功九月
小功五月
總麻三月
暮 九月 五月

○唐書百官志。宗正寺掌天子族親

屬籍以別昭穆。凡親有五等。

一曰。皇帝周親。皇后父母親。品

二曰。皇帝大功親。小功尊屬

大皇太后皇太后皇后周親 視四品

三曰。皇帝小功親。總麻尊屬

大皇太后皇太后皇后大功親 視五品

四曰。皇帝總麻親。祖免尊屬

大皇太后皇太后皇后小功親

五曰。皇帝祖免親。大皇太后小功卑

屬 皇太后總麻親 視六品

皇帝親之夫婦男女降本親二等。餘親降三等。尊屬進一等降而過五等者不為親。

右唐書百二載スル所如此。周親トハ期喪ヲ勒ル親族ナリ。周年ノ至我ト見ヘタリ。祖免親トハ喪服ヲ不着口ハ祖免スル事ノ親族ナリ。天子ハ父母ノ喪各別三年ノ喪ヲ降ニ暮喪ヲ服ニ至ス。故ニ周親ヨリ數テ五等トス。故ニコノ五等ノノ古ノ五服トハ稍異ナリ。天子ノ服如

此士庶人ニ通ニテ五等ト云フシルヘシ。本朝五等ノ制亦此トコトナシ。五等ノ服ノ名ニ中國ト異ナリコトアリ。

本朝之制

親有五等ノ之差其服自一年至七月亦五等。

右ノクケ令ノ内儀制令ニ具ニ此ヲアラセリ。法曹至要鈔拾芥抄トモニ此アリ

五等親

- 一等 父母 養父母
- 天子 養子
- 二等 祖父母 嫡母 繼母

圖

伯叔父 姑 兄弟
 姊妹 夫之父母 妻
 妾 姪 孫 子婦 同
 二等 曾祖父母 伯叔婦
 夫之姪 從父兄弟姊妹
 妹 異父兄弟姊妹
 四等 高祖父母 從祖祖令
无二祖字 拾芥亦同 父姑 從祖
 伯叔父姑 夫兄弟姊妹
 兄弟妻妾 再從兄弟

姊妹 外祖父母 舅
拾芥有 姨 兄弟孫 姊妹
 從父兄弟子 外甥
 曾孫 孫嬪 孫妾
 妻妾前婦子
 五等 妻妾父母 姑子 舅
 子 姨子 玄孫 外
 孫 女 婿

右 本朝内外親族之差別三二五段二
 夕下。此ヲ五等ノ親ト云。今法曹至要鈔

ヨリテコレヲアラス。本令内儀制令ニ載
ス。中國ノ五宗五服ト其クケトナリ。

服假五等事

○一年服 君 天子也 父母 夫 本

主 養子為^ニ本生父母 令嫡孫 承

祖承祖與父母同 古證 妻為天 治部
式

羨解云。謂以十三月為限不計

閏月

○五月服 祖父母 養父母

○三月服 曾祖父母 外祖父母

伯叔姑 妻 兄弟姊妹

夫之父母 養子妻母於夫
之養父母亦同

嫡子

○二月服 高祖父 舅姨 嫡母

繼母 繼父 同居異夫

兄弟姊妹 衆子 嫡孫

○七月服 衆孫 從父兄弟姊妹

兄弟子

▲廟陵ノ號並臣下謚號之古又

○古ハ周ヨリ以前。君臣ニ通ニテ謚ヲ云フ
ナシ。天子ノ廟ニハ唐虞ノ時ヨリモ廟号ヲ
リ。文祖神祖藝祖ノコトキイソシモ君臣
ニアラハル。又殷ノ世ニ三宗ト云コトアリテ。太宗
中宗高宗ト云。世々ノ内功德降ナレ君ヲ宗
ト廟ヲ云フナリ。

○周ヨリコノカク謚ト云フアリテ。天子ヲ王ト稱
ス。諸侯ヲ公ト稱シ。侯ト稱ス。大夫ナレハ字ニ
配。當田ニテコレヲ稱ス。臧文仲。臧僖伯。季

文子ノコトキ。伯仲叔季並ニ子ノ字何レモ
字ナリ。ソノ内天子ニハ又廟号アリテ。宗ト稱ス。
此ハ殷ノ法ノコトク。世々内格別アルニハ此ヲ
稱ス。オニ十三テ廟号アルコトナシ。

○秦始自王天下ヲ統一スルノ後。諡ヲヤメラ
ル。諡ト云モノノ代ノ善惡ヲ考ヘ付クル。故子
トニテ父ヲ議シ。臣トニテ君ヲ議スルコトアルニ
ト。イツテ此ヲヤメ始自武帝ヨリ二世三世ト代
々ノ數ヲ云ヘシトナリ。漢ヨリ復天子ヨリ百
官ニテニ諡アリ。廟号陵號モオコル。高

祖太宗世中宗ナト廟号アリ。長陵西朝
陵ト云類。陵號ナリ。漢以後歷代カワルコト
ナシ。唐ノ世天子ノ諡ロク文字數十字餘アル
ルモアリ。本朝ニハ廟号ハナク。陵號ト云。
何レノ山陵ニ奉葬ト斗ニテ。新ニ陵ノ名ヲ
付ルコトナシ。諡號ハ書記ニ載スルヲ通ニテ
ニルヘシ。臣下ニモ偶ニハコレヲ付ラル。忠仁公仁
羊我公ナト五六ニ過キス。宗朝ニテモ漢ノ
制ニヨツテ改ムルコトナシ。元明モ亦同ニク
變更改セラル。一ニハス。臣下ノ諡張良ヲ

文終ト云。司馬光ヲ温國文正公ト云類ナ
一々ニモコレナシトニハタリ。庶人ニモ學問優
長久ヲ子弟門生私ニ諭スルコト。後漢
世陳寔ヲ大範先生ト云。隋ノ王通ヲ
文中子ト云。程明道ト云ノ類ナリ。一字ハ
常ノ字ヲ用ヒ諭法ノ字ニアラス。續
通考ニ諭法考アリ。

制度通考之七畢 三十一

制度通考之八目錄

伊藤長胤 輯

一 戸口之事 古今戸口多寡

一 墾田之古 古今稅糧總數

一 田賦之古 井田并租庸調兩稅

計三條

○制度通考之八

伊藤長胤輯

▲戸口ノ度

戸トハ家數ノトヨトハ人數ノ。周禮遂大夫
掌登万民之數自生齒皆書于版ト云
リ。版トハ天下ノ民數ヲ書載タルモノナリ。丘
民ノ大學子術義補ニ謂ク。後世ノ黃籍
今ノ黃冊即是ナリト。然レハ古ヘノ人數帳
ヲ版ト云ト見ヘタリ。古ヨリモ人數ヲ考ルコト
有コトコレニテ知ヘニ。又式ヲ負版者ト。論語

ニモイヘリ。然レ上世ノ夏ナレハ其時分ニ天下
ニ戸口何ホト有ト云フ書ニ見レス。通典文
獻通考等ニ禹ノ時ニ九州ノ人口千三百
五十五万二千九百二十二人アリ。周ノ武王ノ
時ニ千三百七十万四千九百二十二人アリト
云リ。是ハ何ニヨリテ云フコトヲ知ラス。後世
ヨリ推ニテ算シタルモノナルヘシ。古トニ據リ
信ニカタニ。漢ヨリ以來ハアキヲカニ史策ニ
見ヘタリ。

○漢ノ取。高祖ノ取分戸口ノ數詳カナラス。
平帝ノ元始二年ニ

戸千二百二十三万二千六十二。

口五千九百五十九万四千九百七十八

トアリ。是ハ漢ノ極盛ノ數ナルニヨリテ。地理
志ニ是ヲアガ。

○後漢光武帝ノ取ニ

戸四百二十七万九千余。口二千百万七千餘
アリ。桓帝ノ永壽時三年ニ

戸千六百七万九百六。

口五千六万六千八百五十六。

トアルハ後漢ノ取極盛ノ人数ナリ。光武ノ
時ヨリハ一倍ノ上ニ及ヘリ。

○其後靈帝ノ時ヨリ。黃巾ノ賊起リテ
天下大ニ亂シテ。段々ニ衰微シ。三國ノ初
ニ人数十カニナリ。魏武帝ノ中原ニ據リ
戸六十六萬三千餘。口四百四十三万二千
余アリ。蜀ノ先主巴蜀ヲ割ク。七千元年
ニ戸二十萬。口男女九十一万アリ。ソノ七
戸二十八万。口九十四万。帶甲將士十
万。吏四萬アリ。吳ノ孫氏盡ク江東ノ

地ヲ有テ赤烏三年。戸五十二万。男女
口二百三十萬アリ。ソノ七戸五十三
万。吏三萬二千。兵二十三萬。男女口二百三
十万。後宮五千余人アリ。三國ノ人数都
合アラセテ後漢桓帝ノ時ノ数ニ較ハ。漸々
分ニ及ベリ。

○晋ノ武帝太康元年。吳ハ平ケテ九
州一統。ソノ時編戸ノ数。

戸二百四十五萬九千八百四。

口千六百一十六萬三千八百六十三。

アリ。是晋ノ時戸口極盛ノ数ナリ。ソノ後
南北ニワカレテ南刘宋ノ光武帝ノ時ニ戸九十
萬余。口四百六十八萬余アリ。齊梁ヲ三陳
ノ七ル寸ニハ。戸五十萬。口二百方アリ。北朝魏
ノ全盛ノ時分ニテ晋ノ大康ニ倍ニテ餘ル
トナリ。ニカハ戸数五百余方モアリト見タ
リ。魏トタニツニワカレテ東魏西魏ト成リ。
東ハ傳北齊。西ハ周北齊ノ七ル寸時ニ戸三百
三万余。口二十萬余アリ。周ノ大象年中六
戸三百五十九萬。口九百萬余アリ。此南
北朝戸数ノ太数ナリ。然レハ其全盛ノ時
南北ヲ合セテ三十四五百方人ニテ。四千万人
ニ及ハズ。

○隋ノ時南北ヲ一統ニテトニ文帝恭儉ニシ
テ爲テ治。不加賦於民。ユヘニ人数倍増ニテ
煬帝ノ大業二年ニ戸八百九十萬余。口
四千六百一万余アリ。煬帝ノ全盛ヲ承ケ
テ荒淫ヲホシシニシテ天下ノ人長城洛河ノ役
ニ死シ。又盜賊トテリテ戸口大ニ減ラセリ。唐ノ太宗ノ
貞觀ノシメニ戸不滿二百方。高宗ノ永徽三年

二漸三百八十萬アリ。隋ノ盛ル時ニ半分ニモ及ハス。其ヨリ段々大平ニ成リテ。人數モ多ク成リ。玄宗ノ天寶十四載

管戸 八百九十一万四千七百九。

文獻元計 三百二他

不課戸 三百五十二万五千五百課戸 五百三十四万九千二百八十九戸

口 五千二百九十一万九千三百九

不課戸 四十四万七千九百八十八 課戸 八百二十五万八千三百二十一

此唐ノ時極盛ノ数ナリ

本朝之制 有課戸有不課戸

課戸不課戸ノ祖唐ノ下ニ之ヲ詳ニス。是モ唐ノ制ニヨリ。本朝イニ天下戸口ノ数律令書ニモ見出ラス。文獻通考。日本考ノ内ニ云。五畿七道凡三千七百七十二郷。四百二十四驛。八十八萬三千三百二十九課戸。課戸之外不可詳見ト云。黃仲昭カ関書并印章。黄カ圖書編ニモ大略之ヲ書ス。是ハ一條院ノ時。清凉寺僧裔然宗ニ入ル時記スル所ニ云。宋史ヨリ出。此ニヨリハ唐ノ極盛四十分ニ三ニテ南朝刘宋ノ天下戸口ノ数ト相准ス。此ハ七八百年以前生齒稀少ノ時

夏ナリ。宋ノ戸口ノ数。

唐ノ中比ヨリ亂世ニナリテ。五代ノ世ニ及ヒ。天下十國ニワカレ。干戈日ニヤトヨク。人民ノ数又大ニ減少セリ。五代滅ビテ後。宋ノ世ニ成リ太祖ノ建隆元年。天下ノ戸数漸九十
六萬余アリ。太宗ノ世ニ十國采心ク平キテ。天下一統ス。至道元年。版籍ヲ造テレ其時主客戸四百十三萬余アリ。ソレヨリ太平相續。天下ノ戸口。世々ニ加増ニテ。徽宗ノ宣寧元年。二

主客戸二千令一萬九千五十。

口四千三百八十二万七千六百六十九。

アリ。又獻通考ヲ考ルニ。右今テ戸口ノ敏系冒ナルコトハ。崇寧大觀ノ比ヨリ盛ルハ三。然レ在當時諸臣上書ヲ觀ルニ。版籍ノ吟味。夕ニカナラサルヨシアリト。ニカレハソノカミノ人数上ニ挙ルホトハナキト見ヘタリ。

○宋朝南渡ノ後。金人ノ兵亂ヲ經テ。兵火疾疫水旱ヲ變ニシ。緇莫トナリ。汝辺賊トナリ。人数甚減少セリ。礼部尚書刘

大中カ上書ニ餘民之存者十無二三
么リ。高宗ノ紹興三年ニ

主客戸一千一百二十七万五千七百三
十三。

口一千九百二十二萬九千八。

アリ。宋朝全盛ノ時ニ較ラフハ。戸數ハ減
半ニナリ。口數ハ四分一ホトニナリ。其後寧宗
ノ時ニナリテ。戸數千二百余万。口數二千
八百万餘ニ及ヘリ。是宋朝戸口大畧十
%。

○元ノ時戸口ノ數。

○元ノ世祖混丁初。

戸一十三万二千九百六十二百
六。

口五千八百八十三萬四千七百二十一。

其末年ニ至テ口五千九百八十四萬八千
九百六十四。此元ノ極盛ナリ。

右一條ハ續說郛内駒陰允記ニ依テ
コレヲ書ス。允記ノ内上代ヨリノ戸口ノコト詳ニ
載之上ニ奉ルト少々異同アリ。大ニ異ナル。

十三。續文獻通考二載ルハ。少く不同アリ。

○明ノ時三代戸口ノ數。

明ノ洪武年中。人民一千六十五萬二千八百七十戸アリト。諸司職掌ニ載ルト。口衍義補コレヲ引。又明會典ニ洪武弘治万歷三代戸口ノ登降ヲ久シク記セリ。各下ニ是ヲ舉ク。

洪武二十六年。

戸一千六百十五万二千八百七十戸。

口六千五百^{百カ}五十四万五千八百二十二口。

弘治四年。

戸九百一十二万三千四百四十六戸。

口五千三百二十八万二千一百五十八口。

萬曆六年。

戸一千六十二万一千四百三十六戸。

口六千六十九万二千八百五十六口。

▲墾田並穀數之古史

三代ヨリ以上天下田地ノ惣數詳可ナラス。
文獻通考云天子ハ畿内千里提封十
萬井ト云是テ大畧推知ハス。

○漢時提封之事漢書地理志ニ詳カ
ナリ。

○漢提封田一萬四千五百一十二万六千

四百五項提封者大畧其封疆也其一萬々二百五十

二万八千八百八十九項邑居道路山川

林澤群ヲサ不可墾其三千二百二十九萬

九百四十七頃可^{ヒラツ}墾不可^{ヒラツ}墾定墾田只
百二十七萬五百三十七頃漢極盛矣。
據元始二年戸十二百二十三万二千
每戸合得田六十七畝百四十六步有
奇。

此ハ文献通考ニ漢書ニ據リテ取載
ナリ。戸口ノ数ニヨリテ見レハ元帝元
始二年ノ数ヲ以テ。積リタルモノナリ。
提封田ト云ハ天下土地ノコトヲ云。不可
墾ト云ハ山川林澤ナト田地ニナラザル

所ヲ云。可^{ヒラツ}墾不可^{ヒラツ}墾ト云ハ山林ニテモナ
ク田地ニモナラザル所ヲ云。今所謂アレ地ト
云ノ類ナルヘシ。今ノ漢書ニハ不可^{ヒラツ}墾ノ三字ナシ。
是アルヲ是トス。定墾田ト云ハ定リテ作り付
タル田畠ナリ。上ノ文ニヨリテミレハ中国天下
ノ廣サ内ニテ田地タルモノ八十萬分ノ一ナリ。タ
トハ八十萬坪ノ場ニテハ一坪田地アルカコトニ。中国
者土地甚廣シ。田地甚少ナリ。是ニテミルヘシ。
定墾田八百二十七萬五百三十六頃。
此漢ノ時田地ノ惣数米穀ノイッレ分ナリ。

其時天下ノ廣

東西九千三百二里。

南北萬二千三百六十八里。

ト是又漢志ニ三ヘタリ。

○後漢ノ時ノ墾田世々詳ニシルセリ。和帝ノ

時七百三十二萬百七十頃余アリ。其後

ハ七百三萬頃ニハミタス。三國已來至日南北

ノ比ニテノ數又詳カナラス。

○隋ノ文帝開皇九年ニ任墾田。

千九百四十萬四千二百六十七頃。

アリ。煬帝ノ大業中ニ五千五百八十五萬四

千四十頃アリ。

杜氏通典ニ謂ラク。開皇ノ時ハ戶數三ヨシ

ハ。戸二田二項余ヲ受。大業ノ時ノ戶數三ヨシ

ハ。戸三田五項余ヲ受。大業ノ時ノ數ハ恐ハ本

史之非實ナラト云リ。ソ時天下土地ノ廣ハサ

東西九千三百里。

南北万四千八百一十五里。

東南ハトモニ海ニ至リ。西自末ニ至リ。北ハ五原

ニ至リテ極リ。隋氏ノ盛ナル是ニキリテ

○唐ノ時因初ノコト詳カナラス。玄宗ノ天宝
中ニ應受田

一千四百三十萬三千八百六十二頃十三
畝。

其後德宗建中ノ初ニ又百十萬頃ヲ得。
通典ニオモヘラク。天寶十四年ノ戸數ニヨリ
公每一戸ニ頃六十餘畝ヲ受ルト云リ。ソノ
時土地ノ廣カ。

東西九千五百十里。

南北萬六千九百十八里。

是ハ太宗ノ時突厥高昌等國ヲ滅シテ
後ニモリナリ。高宗ヨリ以後又出入アリ。

○五代間ノコト又詳カナラス。宋ノ太祖開宝ノ
末年ニ天下ノ墾田二百九十五萬三千三
百餘頃アリ。其後時ニヨリテ登降アリ。
神宗元豐ノ時ニ田四百六十一萬六千五
百五十六頃アリ。宋朝ノ土地ハ五代晋ノ
時ヨリ此ニテ幽薊十六州ノ地ヲ契丹ニタタ
ヘ西ニ復スノ國アリ。南交趾ヲ失フ。エヘ漢唐
ノ墾田ノ數ニ較フレハ甚ダスクナシ。然レ前

代の四分一三分一ホトニ減ニ且又民間ニ賦
税ナキ田地多キニヨリニ。カクコトニ。文獻通考
ニ詳カナリ。

○宋ノ太祖周ノ禪ヲ受テ。段々ニ諸國ヲ平
テ。ソノ後太宗ノ至道中二十五路ニ分テ
天下ノ廣サ。

東西六千四百八十五里。

南北一萬一千六百二十里。

是モ東南ハ海キリニテ。西棘人ニ盡キ。北
ハ中山ニ際リテ。カクコトニ。隋唐ノ時ニア

ハセテハ南北ノハ。甚セテニ。是ハ函燕ノ十
六州右晉ノ時ヨリ契丹ヘオクリタルニ
ナレニ。其後徽宗己來段々ニ北狄ニ上レ
南宋ニ及ニテハ疆域ノヨクセテリ

○元ノ取。天下土地ノ廣サ前代ニスク續。文
獻通考云。元起朔漠併西域。平西夏
滅女直。臣高麗。定南詔。遂下江南
而天下為之。故其地北踰陰山西極流沙
東盡遼左。南越山嶺。表東西所至不
下漢唐而西北則過之。

○明太祖元ヲ滅三ノ天下ヲ一統ス。洪武
ノ時。天下ノ廣ハ廿。

東西一萬九百里。

南北一萬千五百里。

谷應泰カ明史紀夏本末云。清人洪武二
十七年。秋九月庚申。宸宇通志書成。
方隅之目有八。東距東都司東北至三
萬衛西極四川松潘衛西南距雲南
金沙南踰廣東崖州東南至福
建漳州府北暨大平大寧衛西北陝

西耳肅縱一萬九百里。橫一萬一千五百
里。四裔不與正焉。

○又常熟ノ鄒臬子靜カ経世格要ニモ
全ク此古又アリ。未ノ文少不同。凡天下道里。
縱一萬九百里。橫一萬一千七百五十里ト
アリ。

○明ノ收洪武中ニ。墾田八八萬四千九百六
千五百二十三頃。稅糧二千九百四十四力
石アリ。諸司職掌ニスル所大學子衍義
補ニコレヲ引ク。丘氏ヲモヘラク。戸口之數校

之宋雖畧相當而今月墾田則過之遠矣。ト又大明會典ニ洪武弘治萬曆ノ三代ノ數ヲ詳ニコレヲ記ス。

洪武二十六年

天下田土總計八百五十萬七千六百二十三頃。六十八畝零。

夏稅 米麥四百七十七萬二千九百石。

秋糧 米二千四百七十二萬九千四百五十石。

弘治五年

六百二十二萬八千五百十八頃。八十一畝零。

夏稅 大小米麥四百六十二萬五千五百九十四石三斗八升二合七勺。

秋糧 米二千二百六十六萬六千六百六十五石九斗六合四勺零。

萬曆六年

七百一萬三千九百七十六頃。二十八畝零。

夏稅 大小麥米四百六十五萬二千二百四十二石八斗七升五合七勺。

秋糧 米二千二百三十三萬三千一百七十石六斗九升二合二勺零。

右會典ニスル。明ノ時。天下年貢物惣高ノツモリ。カククコトニ。夏ハ麥ヲ取。秋米ヲ取。是ヲ夏稅。秋糧ト云。所謂兩稅是ナリ。唐ノ代。宗ノ時ヨリ。コノ通りナリ。大要明ノ時

米穀ノ物惣數二千四百萬石餘ナリ。然レ
 凡。明ノ時升斗ノツモリ。日本今日ノ減半ナ
 シ。今時ノ千二三百萬石ホトノツモリト見
 エタリ。

▲田賦之古又 井田 租庸調 兩稅

唐虞ノ時。租稅ノ法詳カラス。舜攝政
 ノ時。天下九州ノ田地ヲウリテ九等トス。是
 ヲ賦ト云フ。書曰。經禹貢ノ篇ニ詳カナリ。亦
 謂厥賦惟土上ト云。等ノ下トキ是ナリ。

夏貢法

十五	十五
十五	十五
十五	十五
十五	十五
十五	十五

十夫同井。一天各受
 田五十畝。納五畝之
 稅于上。

法助殷

七十	七十	七十
七十	公田	七十
七十	七十	七十

八家同井一家各受七十畝助耕公田

法徹周

百畝	百畝
百畝	百畝
百畝	百畝
百畝	百畝

此夏貢法

都鄙用貢法
徹有二說今從此說

百畝	百畝	百畝
百畝	公田	百畝
百畝	百畝	百畝

此殷助法

鄉遂用助法

夏世三貢ト云。殷世二助ト云。周ノ世二徹ト云。孟子ニ詳カナリ。貢法ト云ハ夏后氏ノ世ニ田地十間ヲ一組ニシテ。一開ニ五十畝ツアリ。是ヲ一入ツニワタシテ一開コトシ。開ニ溝アリ。取謂十夫有溝ト云。是ナリ。サテ秋成ノサメ時分ニ十人ノ面々ヨリ五十畝千分一五畝ノ取得ヲ公儀ヘアケテ年貢トシ。ソノ残りヲ己カ得分トス。貢ハ父テツル。羊我ナリ。故ニ孟子ニ云夏后氏五十而貢ト云。貢ト云。コノ時ニハ何モ私田ニテ公田ナシ。助法ト云ハ。殷ノ世ニ田地九間ヲ一組ニシテ

一圃コトニ七十畝アリ。其間毎ニ溝ヲホリ境ヲナス。井ノ字ノ形ノコトク。成故是ヲ井田ト云。真中ノ七十畝ニハ、五十ニ是ヲ公田ト云。一ハリノ八間各七十畝アリ。是ヲ八人ニワタシニテ耕作セシム。是ヲ私田ト云。八家同井ト云。コトナリ。八人ノモノト通用シテ公田ヲ耕シ。秋成ノ時ニハ、公田七十畝ノ入ヲ公儀ヘアケテ、年貢トシ。私田七十畝ツツノ入ヲワカ所得トス。助ハタスクルト讀通リナリ。公儀ノ田ヲ百姓ノカラカリテタスケ耕スニヨリニ。是ヲ助

法ト云。故ニ孟子ニ殷人ハ七十而助ト云ヘリ。コト内ニ盧舎アルノ先儒ヨリ説アル也。詳カナラス。徹ト云ハ、周ノ世ニハ國中ヲ都鄙郷遂トワリテ。六郷六遂ニテ郷遂ト云。都鄙ノ外ニアル。都鄙ノミヤコ近キ所ニハ、殷ノ助法ヲ用ヒ。郷遂ノ遠キトコニハ、夏ノ世ノ貢法ヲ用ヒテ。二代ノ法ヲ通用交ルユスニ。コレヲ名ツケテ徹法ト云。徹ハ通徹ノ義ナリ。ソノ内周ノ世ニハ、人トエニ田地百畝ヲ渡サレタルユヘニ、孟子ニ周人百畝而徹ト云リ。稅法ノ名カクノコトク。世々ニカハシキ。何モ

大槓ハ十分ニワリテ。ソノ一分通ヲ百姓ヘアタヘ
ラル。ニヨリテ。是ヲ十一ノ税ト云。孟子ニ其實皆
十一也トアル。是ナリ。孟子ニ粟米之征ト云。是
ナリ。ゴノ外ニ布縵ノ征ト云テ。絹布ヲ年貢
ニ取コトアリ。カ役ノ征ト云テ。百姓ヲ夫役ニ使
フコトアリ。周禮ニ二年ノ内ニ人于前ニ三月ツ
使フト云リ。又田地ノワリニヨリテ。兵車ヲ出ス。三
代ノ田法大畧カクコトニ。ソノ大スニハ。孟子ニ
アキヲカナリ。周禮王制等。並ニ注疏ヲニニ考
フヘシ。

○周ノ末ヨリ。王法クツシヤフレテ。貢法助法モ古ノ
コトクニ行レス。魯ノ宣公ノ時ヨリ。十一ヲアケテ十
カニヲ取レリ。春秋左傳等ニ見ヘタリ。其後
諸國モ詳カニシサレタ。大既ホオニ知ヘシ。孟子
ノ時ニハ。ヨクノラトクヘスタレテ。周ノ助法ヲ行フ
コトサヘタシカニ知ラレス。孟子モ詩經ニハ。古ル
雨我公田。遂及我土云。文句ニヨリテ。周ノ助
法アルコトヲオシハカラル。ホトニ古ノ成法コトク
クスタレタリ。ニカレタ。井田ノカタチハ残リタリ
ト見タリ。秦ノ孝公ノ時ニ及テ。高鞅ヲ用テ

天下ノ井田ヲヤフリ。阡陌ヲホロホスニテ井田ノカ
クナモコトククカワリタリ。其ノ時工貝賦ノ
分量タニカニシレス。漢ノ人奏テノ古又ラ云テ大
羊之賦ト云リ。是ニヨリテ先儒ノ説ニ。秦
ノ時六十ガ五ヲ取テ。ソノ半分ヲ百姓ヘア
タフト云リ。二世其法ヲ承行ヒ。益聚斂ヲツ
トメ海内愁々ニテ遂ニ天下ヲ失ヘリ。

高鞅破井田開阡陌ト云ハ人々井田ヲホロ
ホスニテ阡陌ヲコニラヘハニムトオセフハアヤリ
ナリ。開ト云ハニメヒラクニアラス。先王井田

ノ時ノ阡陌ヲヤフリホロホスナリ。朱子開
阡陌弁アリ可考。二行前紙習三行可書者也。
予讀史書故斷之。

○漢ノ高祖ノ時。至リテ秦ノ弊ヲウケ禁
ヲハフキ。田租ヲカロクニテ什五ニシテ一ヲ稅ス。
又天下ノ民年十五ヨリ五十六マテノ間人別
ニ錢百二十ヲ出サシム。是ヲ一筭サト云。庫ヲ治メ
車馬ノ用トス。是ヲ筭賦ト云。景帝ノ世ニ六
三十三ニシテ一ヲ稅セシム。王莽篡位テ令ヲ下
シテ曰。漢氏減輕田租其名三十實貝什
稅五也。是ハ前漢ノ末ノコトナルヘシ。後漢

光武ノ時ニ及ニテ田租三十税一。

○租税ノ外ニ古ヘヨリ百姓ヲ夫役ニ使フ法アリ。孟子所謂力役ノ征ト云是ナリ。古者役民歳不過三日ト云リ。秦ノ世ニナリテ一年ノ内ニ三月使フ。故董仲舒屯成一岁力役三十倍於古ト云リ。漢ノ世ニ及ニテ秦ノ法ニヨリテ更賦ノ法アリ。更ハカハル意ニテ畚田カハリ。屯成スルニヨリテ是ヲ更ニニ品アリ。正卒一月ニ更リスルヲ是ヲ卒更ト云。又畚田ニアタルモノ貧民キモノヲ

顧^ヤテ遣ス。月毎ニ錢二千是ヲ踐更ト云。又天下ノ人定リテ一年ノ内邊ヲ成ルコト三月又各ケテ更トス。丞相ノ子トク人屯。コノ役ニアタラスト云フナシ。然レ人々邊ニユクコト成カタル。又成ルモノ三月ニテ其ハカヘリカタシヨツテ人々ニ三百錢ヲ出シテ。公儀ニアゲ公儀ヨリ成者ヲヤトフテ遣シ一年ヲ一更リニスルナリ。是ヲ過更ト云。ソノ後コノ法アラタマリテ罪アルモノ成邊コト止歳成ナリ。後漢ノ明帝ノ世ニ尚書張林カコトヨリ。

穀貴ク錢賤キニヨリ。モツハラ布帛ヲ取テ
祖トシテ。天下ノ用ヲ通セシム。シク後魏ノ武
帝素素紹ラテ平ケテ後田租畝コトニ西米
四升。石トニ絹ニ疋。綿ニ疋ヲ取テ其余ハ
擲ニオコスヲ得ス。晋宋ノ世モ大田各前
代ノ通りニシテ少ハカワリアリ。

○南齊月ノ世ニ至テ其課丁田凡調布絹
各二丈。絲三兩。綿八兩。祿絹八尺。祿綿三
兩二分。租米五石。丁女ハ何モ其半ヲ取。男
子ハ十六ヲ半課トシ。十八ヨリ正課トス。六十

六ニテ課ヲ免ス。其田凡丁毎歳ニ役スルコト不
過二十日。其田畝稅米二升ト定メラル。其
後梁陳並ニ北朝ノ制。一々舉ルニ暇アラス。
大抵米穀ヲ取リ布帛ヲ取リ。又夫役ニ
使フ日數アリテ各ソク年貢ヲオサム。唐ニ
至リテ是ヲ定メテ租庸調トス。畢昇見
古ヘノ布縷之征。カ役之征。粟米之征ト
云ノニ口田ニスキス。名ハカワレ在。同キケナリ。
課役ト云コトヲ今ク入一コトニ覺ユルハヤリ
ナリ。課ト云フハ成丁以上ニ絹ヲイタス。

ナリ。役ト云フハ夫役ニツカワル、フナリ。其
故法令ノ書ニ課役並免スト云フアリ。
又年貢貢ヲ調ト云フハモト軍役ニ士卒ヲ
カリ立ルヨリイフ。杜氏通典ニ云ク夫調
者猶存古井田調發兵車名耳此
登直歛人之財者乎ト是ニテ調ノ名
義我知ルヘシ。

○唐ノ高祖ノ武徳七年ニハシメテ均田賦稅
ヲ定ム。天下ノ丁男歳十八以上十九モノニ田
一頃ヲ給フ。病人並ニ寡妻妾ニハ又三

四十畝ヲ給ヒ。ソノ内ニテ二十畝ヲ永業田
トス。代々ノ家督ニシテ。子孫マテ七是
ヲ傳領ス。其ホカヲ口分田トス。代ノ内
是ヲ作ル。サテ年貢ノ品アリテ租庸調
ト云。丁男一人ノ年貢ヨリ粟二斛ヲ出ス。
是ヲ租ト云。又丁男一人ハ所々ノ土産ノ
品ヨリテ絹綿麻布等ヲ出ス。是ヲ
調ト云。又丁男一人ニ一年ノ中ニ二十日役
ニ使フ。モシ役ニアタラサレハソノカワリニ日
ノ絹三尺ヲ取ル。是ヲ庸ト云。二十日ノ

上三十五日加シハ調ヲユルニ。二十日ヲ加シ
租調トモユル。正役ニラハセテ五十日ニ
分テ。唐ノ初ノ賦稅コノ通ナリ。
本朝ノ稅法モ然ラ。コノ制ニヨリ。

○武德七年始定均田賦稅。凡天下
丁男十八以上給田一項。篤疾廢疾給
四十畝。寡妻妾三十畝。若爲戶者加
二十畝。比日以二十畝爲永業。其餘爲
口分。凡授田者丁歲二輸粟二石。謂之
租。丁隨鄉所出。歲輸絹綾絕各

二。又布八加五之一。綿二兩。輸布者麻三
斤。謂之調。用人者。自歲二十日。閏加二日。
不獲者。日爲絹三尺。謂之庸。有古久而
加役。二十五日免。調三十日。租調皆免。不
通。正役者。不逾五十日。

右文獻通考ニ載ル所カクトシ。唐書曰。食
貨志ニハ。授田者。丁成輸西米二斛。稻
三斛。謂之租。トアリ。又云。非蚕鄉。則銀
十四兩。謂之調。トソ。外大田。各同キコトナリ。
絶ハ。三絹ト訓ス。ツムキノ類ナルベシ。

租庸調圖

租則有田出

庸則有貝出

調則有家出

歲輸粟
二石

絹綾絕布

歲役二十日
不役出絹

唐ノ法モ前代ノ法ニヨリテ增損ニテ定テリ
允モノナリ。コノモノ斬ク是ヲミレハ一キヲ三キ
ヤリニキユ。畢竟田地居宅人身ノ稅ナリ。租
田賦ヲ云。庸ハ口賦ヲ云。調ハ戶賦ヲ云。故ニ
魏ノ時ニハ是ヲ戶調ト云。

○陸宣公奏議云。租庸調ノ法ハ宗本三前

哲之規模 考曆代

之利害有田則有租有家則有調有身則
則有庸法制均一不困而上用足

○呂東萊曰。凡有田者出布帛有田者出租賦
後魏亦謂之戶調以一夫一婦出帛一疋然役法
尚存古制但至南北朝增三代之三日至於四五
日。至唐高祖立租庸調之法承龍喪三代漢魏
南北之制雖或重或輕要之規模莫手尚
不突旧德而稅之法既立三代之制皆不
復見

○經國雄畧云。唐之租庸調。租出於田。調出於家。庸出於身。令不煩而場之。云。又云。民之取以供上之令者三。曰租。曰調。曰庸。租者地之取當出。調者兵之取當庸。庸者歲之取當役也。故使之納粟於官。以爲田之租。入布帛以爲兵之調。歲役其力不役。則出其力之所直爲役之庸。蘇子田
民政策

永業田

口分田

○永業田ノ古又モ。北朝ヨリアラハル。北齊ノ武成帝ノ取。職吏及百姓ノ墾田ヲ請フモノニ授ク。ルヲ永業田ト云。隋唐ノ世ニナリテモ。其通ニテ唐ノ取。又口分田賜ル。畢竟永業田ト云モノハ。代々ノ家督ニテ官民ニコレアリ。タトヒ罪科アリテモ。其下ニオカルコトナリ。通典ニ云。諸永業田皆傳子孫。不在取授之限。若子孫犯除名者。所承之地亦不追。

○唐ノ中葉ニ代宗ニ至リテ宰相楊炎カ計ニヨ
リテ租庸調ノ法アラタリテ兩稅ノ法トス。
兩稅ト云ハ夏ハ麥ヲトリ。秋ハ米ヲトル。ゴノ後
宋明ニオヒテモ何モ此通ニテ明ノ收自是ヲ
夏稅秋糧ト云。陸宣公曰。兩稅之法。每州
各取大歷中一年科率錢穀數最多者
定為兩稅額。惟以資資產為宗。不以下身
為本。資產少者稅輕。多者稅重。大子行
義補云。代宗始以畝定稅而歛。以夏秋。
德宗取楊炎為相。遂作兩稅ノ法。夏輸

無過六月。秋輸無十一月。以大曆十四年墾
田之數為定。而均收之。ト唐ノ時ヨリ兩稅
ハ三ツリタリ。ケ其大畧是ニテ知ヘシ。

本朝之制 田有租。身有庸。戸有調。

租庸調ノ法モツハラ唐ノ法ニヨル。租ト云ハ
年貢ノ事ナリ。庸ト云ハ夫役ナリ。調ト云ハ家
役ナリ。ゴノニツハ布帛ライダス。何モ唐ノ法ノ
コトクニテ。損益アリ。

○租ノ更令ニ云。段租。稍二束。二把。町租。稍二
十二束。義我解云。田賦為租也。又云。段地。獲

稻五十束。束、縮春^テ得米五升也。即於一町
者、須得五百束也。トコノツモリニハ田地三百
六十坪一段ノトコロヨリ。米ノイツルコト五十束。ソ
ノ内ヲ二束ニ把ヲ年十百ハヲ上ルナリ。一町ノ場又
準之。又是ヲ米ニスル寸ハ縮一束ヲ春^テ米五升
ヲ得。一段五十束ニテハ。二石五斗ナリ。其内ヲ
一斗一升年十百ハニハカル。町ノ上ニテハ二十五石ノ内
一石一斗トルナリ。然レハ二十五分ノヲ税^トニテ。女ニ
オモシ。唐ノ取ニハ。丁男一人ニ田一項ハヲクダシテ粟ニ
石縮二斛ヲ出ス。是ニ準^テニテ輕重アリ。

○文武天皇。慶雲三年九月丙辰遣使七
道始定田租法。所十五束及點^ト後丁ヲ右ハ續
日本記ニ見ヘタリ。拾芥ニ其時ノ勅書ノ畧ヲ
挙テ云宜段別充^ツ租縮一束五把。ト同キコト
ナリ。然レハ大寶ノ時令ヲ撰ハル。ニハ一町ニ斛
一斗ヲ出ストコロヨリ減少ニテ。七斗五升ニ定メ
テ取ラル。ト見ヘタリ。拾芥ニ段別ニ充租ト
アルハ。ミニテ取ヤウニキユル也。續紀ノ通ニテハ令
ノ定ヨリ減省ニテ取ルナリ。ニカレハ三十三ニテ
一ヲ取ヨリモカロニ。町ノ租五百束ノ内ヲ十五束

取ルナリ。各本書二詳カナリ。

○弘仁式云。上田一段地子十束。中田一段八束。下田一段六束。下々田一段三束。拾芥云。租上地子雖出一流。格式之時。租者數少。地子數多ト云ク。地子八租上各別ナリ。是モ唐口取分ヨリソノ名アリ。唐書百食貨志ニ云。貞觀十一年。以職田侵漁百姓。詔給。逃還。貧戶視職田多少。每畝給粟二斗。謂之地子。是歲以水旱復罷之。

○古へ田ヲハカルニハモツハラ。町ト云位田職田モ幾町トツモリテ給允。近世百年前ニハ百貫十貫ト云フアリ。何レノ比ヨリハニアルト云フヲニラス。或云。今ノ見米五十石ノ地ヲ十貫トツモル。又一説ニハ十石ノ場ヲ百貫ト云リ。大様其ノ通りノ支ナレハシ。ソノ後モツハラ石ヲ以テツモリテ今テニ至テラレニヨル。

○庸ノ古又令云。凡正丁歳後十日。若酒取庸者。布二丈六尺。一日ニ二尺六寸。須留田使者滿三十日。租調俱免。役日少者。計見役日折免。通正役並不得過四十日。次下二人

同一正丁右ノウケハ。本朝ノ古法天下ノ百姓
歳二十ヨリ六十ノ内ヲ正丁トシテ元ノ間
四十年ハ廿一リニテ一年ニ夫役十日使トタテ
タルモノナリ。何古又ニテモ其自身ヲ夫ニ使トキ其
通。モ三夫役ニ使ハサレハ其代ニ布ヲ取。是ヲ
庸布ト云。一人前ニ一日ニ二尺六寸トタテ十
日ニテ二丈六尺。一端ヲ取コトナリ。又十日正役ノ
外加役二十日ニ滿ルナリ。租並ニ調トシテ云。
但加役三十日ニテ廿六尺入前ノ前ノ租調ヲ三
十二ウケ。其一分ヲ一月トシテ加役ノ日数ヲ等用

ニテコレヲ云ス。上々取謂折免是ナリ。此折ノ字
折支米ノ折
トナリ。惣別正役加役ニ通ニテ一人年前
二年ノ内夫役四十日ニスナス。又次丁ハ二人アハセ
テ正丁一人ノ役ヲスルナリ。次丁ト云ハ老人六十
以上ノモノ又ハ病人ナドヲ云。令ニ云。凡老殘並為
次丁ト是ナリ。
唐ノ時ニハ正役トシニ廿日閏年ニハ二月ヲ加ヘ
庸布日々ニ二尺加役ニ通ニテ五十日ト定メ
十五日ニテ租ヲ元ニ。二十日ニテ租調ト云ス。
本朝ノ法是ニヨリテ損益ニ簡ニシテ。寬ニ

既二上二詳カナリ。

○文武天皇。慶雲三年二月庚寅詔。制
七條。夏其五日准令正丁歲^{スルニ}役庸布二
丈六尺^{ツツニ}。當^{ツツニ}欲^下輕^ニ歲役之庸。息^中人民之
乏。並宜減半^{當當}。コノ時ニ二丈六尺ノ庸
布ヲ減少ニシテ半分ニセラルト見ヘタリ。日數
ノ古又ハ令ニカワルコトハナキナルベシ。

○調ノ古又令ニ云。凡調絹絕絲綿布並隨
郷土所出正丁一人絹絕八尺五寸六丁成定
長五丈一尺廣二尺二寸。羨濃絕六尺五寸

八丁成定。長五丈二尺廣同。絹絕絲八兩。綿
一斤布二丈六尺並二丁成絢屯端。端長五
丈二尺廣二尺四寸。其望院布四丁成端。長
五丈二尺廣二尺八寸。

右ノウケハ本朝ノ古法天下ノ百姓二十ヨリ六
十一ニテ成丁ノ分ニ六。年貢庸役ノ外ニ絹多
イト布等ヲ所々出產ノ品ヨリ取コトナリ。
是ヲ調ト云。絹十ケレハ一人前ニ八尺五寸ツ、イ
タニテ。六人ニテ一足ヲ成就ス。五丈一尺羨濃
絶八人ニテ五丈二尺一足ヲ成ニ。絲十レハ一人

前二八両二丁ニテ十六両一約ヲ成ス。綿十六八
前一介ニテ二丁ニテ二介一屯ヲ成ス。布十六八
三丈六尺ニテ二丁ニテ五丈二尺一端ヲ成ス。又
次丁八二人ニテ正丁一人ニ準ス。中田カ八四人ニテ
正丁一人ニ準ス。中田カト云ハ十六ヨリ二十ニテノ
モノナリ。此外ニ又雜物ト云モノアリテ。鉄塩堅
魚紫菜海藻等ノ類。正丁一人ヨリ出ス
品アリ。又調ノ副物ト云テ。紫茜木綿漆黄
連等ヲ出ス品々アリ。是ヲ合テ屯ニ調ト云ソ
ノ品目ノ詳ルコトハ令ニ具ナリ。ゴニアラス。

○スヘテ調庸ノ物ハ毎年八月中旬ニツク取ヨ
リ起ル輸ニテ近国ハ十月廿日。中国ハ十一月廿
日。遠国ハ十二月廿日ニテ。大藏省へオサムル
ナリ。タニシ調ノ系ハ百姓ノ手前ヨリハ蚕古夏
オハリテ即輸ニ。七月ヲ待タス。七月廿日以前
ニ省へオサムルナリ。

○調ノ古夏ハ。前ニ論スル家別ノ絹年工員ナリ。
故ニコレヲ戸調ト云。然レモ。オニナニ家別ニイ
タスニアラス。戸課戸不課戸ト云フアリ。元
成丁已上課ロアルヲ課戸トシ。ナキヲ不課戸

トス。ニカレハ調ハ調戸ハカリ出スト見ヘタリ。
○令云。戸内有課口者為課戸無課口者
為不課戸。望我解云。不課謂皇親及八
位以上男年十六以下並蔭子者。廢疾
篤疾妻妾。及家人奴婢。唐令ノ文本
朝令ト全ク同キコトナリ。是ハ歷々ノ人病
人。及下人等ヲ課セサルニヨリテ是ヲ不課口
ト云。此外正丁ノ分ヲ課口ト云。課口ハカリヨリ
調物ヲ出スナリ。貢ノ物ノ一中國ニテハ賦稅
ノ外ニ在リ。禹貢ニ諸州ニ歛貢ハ其トニルカ

唐ニテモソノ通トミヘタリ。本朝ニ在リテ國々ノ
貢物ヲスルニ調ノ内ヘイレテ。租庸調ノ外ニ別
ニ貢ハノ名ナシ。ソノ内雜物ト云。寸ハ塩鉄魚類
等ヲソノ定リノ數ホト出セハ調ノ絹布ハ元
サルトミヘタリ。調副物ト云トキハ定リタル調
ノ絹布ノ外ニ又此品ヲ出スト見ヘタリ。令ヲ考
ヘテ弁ヘシ。調布。是ヲテック
リト訓ス。

右本朝租庸調ノ法大畧カクノコトニ。全ク唐
ノ制ニヨリテヤ。斟酌アリ。ニカルニ本朝ノ古
書所々ニ此古又アレ也。是ヲ合テ租庸調ト

連テ称スル古又ナキニヨリテ。學者モ古モカク
トトキコトアルヲ知ラス。ソノ上唐ノ法ヲ模セラ
ルトイヘ也。唐ノ法ヨリハコトク外簡易ニシテ古又
カヨシ。古ノ王代之盛ニ取。上下相安ニシテ無為
爲ノ治ヲ樂ムユコトナリ。古ヲ以テ謂ユルモ知
ラスニハアルヘカラス。

○宋朝ノ法五代ノ後ヲ受テ。唐ノ兩稅ノ法ヲ
用テ。太祖ノ顯德三年。二宣アリテ。夏
稅ハ六月朔日ニ起徵シ。秋稅ハ十月朔日
ヨリ起徵ス。コレヨリ永ク定制トナル。

○太抵宋ノ租稅ノ法ハ穀帛金鉄物産トソ
ノ品ヲ四類ニ分ツ。内穀ノ品七。粟麥稻菽
ノ類ナリ。布帛絲綿ノ品十一。綾羅絹緞絶
綿布葛ノ類ナリ。金鉄ノ品四。金銀鉄並ニ
錢ナリ。物産ノ品六ツ。六畜。茶。塩。藥。竹。木。
油。漆。蠟。雜物等是ナリ。詳ニ文獻通考
ニアル。

○元ノ時。年貢ノ取ヤリ。唐ノ法ニヨリテ。丁身
ト地トノ稅ハ高祖ノ時ノ租庸調ノ法ニナラ
ヒ。夏秋ノ稅ハ大曆ノ兩稅ノ法ニナラフ。公田平

畧三云。元之取民大率以唐爲法。其取於
内郡者曰丁稅。曰地稅。此倣唐之租庸調
也。取於江南者曰秋稅。曰夏稅。此倣唐之
兩稅也。下稅地稅之法。自太宗始行之。至
丙申年乃定。科徵之法。是十ノ。

○明時租稅ノ法。唐ノ兩稅ノ法ニ。夏麥
ヲ取リ。秋ハ米ヲ取ル。是ヲ夏稅。秋糧ト云。
又畧ニテハ稅糧云。會典云。國初官民
田稅糧俱有定額。是十リ。ソノ内唐ノ初
ノ租庸調ノ法ハ。百姓ノ身ヲ本トシテ。人數

ニヨリテ稅ヲ取ル。明ノ取ニハ。田地ノ廣狹ニヨリ
テ年貢ヲ定ム。今ノ日本ノ法トシテ。取ニヨリテ
免ノ上下アリ。是ヲ科則陞降ト云。洪武ノ初
ニ官田ノ起。科一畝毎ニ五升ニ合五斗。民田ハ
一畝毎ニ三升ニ合五斗。夕々。ソノ餘。里租田蘆
地等。各ソシ差アリ。景泰六年。浙江府嘉
州湖州杭州ノ官田ノ科米ヲ增シ。畝ニ石
ホト納ル。取ニ石三斗ヲ取ラレ。段々ソシ次第アリ。
己ハ東南豪腴ノ地ニテ。日來租稅ヲ重ク取
ラレ上ニ。又増益サセラルト見ヘタリ。

朱氏治平略云。明初稽古定制。以天下
墾田定天下之賦。稅凡有三等。徵以夏曰
夏稅。徵以秋曰秋糧。夏稅農桑絲也。
以植桑者本農而蚕。古又以夏始登。故也。
秋糧有本色。有折色。其種米以穀。至秋
始成。而折色。以粟直爲折也。夏稅。毋過八
月。秋糧毋過明年二月。唐八治平。田各云。畝稅一斗。天下之通法。而
西浙畝稅三斗。則錢氏之弊。政也。是八五
代。吳越錢王ノ時ノ事ナリ。一畝一斗ト云ハ。當時錢
宋ノ時ノ定法ニテ云ナルヘシ。明ノ末ニ畝一石ト云ハ。十

倍ノミシナリ。是ハ斗斛ノ積前代ト違タル故ナルヘシ。又畝
モ廣狹アルヘシ。

中國古ヘヨリノ稅法通シテコレヲ考ルニ。三代ノ時。井
田ノ法ヲチ一人ニ二田。地百畝。或ハ五十畝。七十畝。以
タシテソノ什カヲ取ル。外ニ軍賦。征稅アルヘシ。賦
口賦アルヲキカス。秦ヨリコレノカメ。井田ノ法スタレテ。地
ヲステハ人ヲ稅ス。口等并踐。更寺ノ法オコル。唐ノ
ハニニメニ二十リテ。前代ヲ捐益ニテ。租庸調
ノ法トナリ。田賦。戶賦。口賦ヲ取ル。代宗ノ取。成
リテ。宰相楊炎カ計ニヨリ。兩稅ノ法ニアラタ

下リ。後世ニテソク通ニ遵用ユ。其内祖庸調ノ
法ハ一人ノ身ヨリツモリ出ニテ十八已上六十
ニテ内ニ田地ヲ渡ニ。税ヲ取。取謂以人丁
為本ト是ナリ。大歷已來ノ兩税ト云ハ人丁カ
ハワス。モツハラ百姓ノ身代ノ貧富富ニヨリ高
シタテ。富兒モノ多クオサメ。貧キモノハスクナク
取コトナリ。宋モ其通ニテ。孟子集註ニ今
之兩税三限法ト是也ト云。明モ其法ニヨ
レ其取ヤク。唐ト女異也。

制度通書之八畢 三十七



早稲田大学図書館

011888001290